慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ベクア 社会主義の経済法則とソビエト国家の経済政策
Sub Title	
Author	加藤, 寛
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1955
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.48, No.6 (1955. 6) ,p.478(56)- 480(58)
JaLC DOI	10.14991/001.19550601-0056
Abstract	
Notes	書評及び紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19550601-0056

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ベクア「社會主義の經濟法則とソビエト國家の經濟政策」

И. Векуа "Экономические Законы Социализма и Хозяственная Политика Советского Государства" Вопросы Экономики, Но. 9, 1954.

スターリン論文以來、社會主義の經濟法則に關する論文が多數現われたが、これもこの立場から經濟政策の意義について反省したものである。以下簡單に論旨を追つて紹介する。

× × ×

ソビエト國家の經濟政策は社會主義の客觀的經濟法則の反映であつて、社會主義計畫の諸方策に具體的に表現される。すべての政策は經濟の集中的表現であり、社會の經濟的發展の要求から發する。そこで政策は、社會主義の客觀的經濟法則の要求を正しく考慮しその動向に從つた時にのみ成功する。この場合所與の經濟的基盤の特殊性が經濟に對する政治の反作用の特殊性をきめることは勿論である。

社會主義の經濟政策の優位性は、社會主義の經濟法則が社會に全經濟計畫化の可能性を與えるという所にある。黨と政府とは社會主義經濟發展の客觀的法則を顧慮し、共產主義建設の課題解決に實踐する。社會主義經濟は資本主義の胎內から準備されて出てはこない。資本主義の發展は、社會主義的生產手段の前提を準備するだけである。社會主義建設を可能にするのに、黨・政府の政策の指導が大きな役割を演ずる。

指導的機關の組織的・指導的働きなしには社會主義國民經濟は發展できない。指導が弱まれば經濟は混亂する。國民經濟の均衡的發展に經濟政策は重要な役割をもつている。

また經濟政策は重要な經濟問題の解決を通して、常に一般的問題に關している。例えば社會主義建設の重要な條件であつた勞農同盟は、常に各時期毎に適した經濟政策によつて强固にされてきた。同じように生產力の合理的配置・產業化促進という經濟政策は、民族間の正しい經濟的交流を調整し、避地の經濟的向上をもたらすなど民族問題解決に大きな役割を演じた。

經濟政策設定に際して決定的意義をもつものは社會主義の基本的經濟法則である。その決定的意義は物質的文化的水準の組織的發展なしに社會主義的再生產の擴大を實現できないということである。共產主義建設の目標は社會主義の基本的經濟法則の要求に應える。何故なら共產主義は社會の全人民の增大する物質的・文化的要求をより充分にし全面的に滿足させ、彼らの才能の全面的發展を保障するからである。黨・政府の五ヵ年計畫は共產主義建設目標の體現である。

經濟政策は社會主義の基本的經濟法則の要求を考慮するだけでなく他の經濟法則の要求も考慮する。經濟政策は孤立した法則によらず、すべての認められた經濟法則の要求の同時的考慮の上で成立する。

所で政治經濟學の研究は社會の經濟的發展の法則を明らかにし、經濟諸方策の經濟的結果を豫測するのにきわめて重要である。しかし經濟政策の對象と政治經濟學の對象とが同一であるというような經濟政策と社會主義の客觀的經濟法則との混同は注意すべきである。それは經濟理論の發展にも經濟的實踐においても有害である。尤も政治經濟學と經濟政策に重要な境界をおくことは萬里の長城を作ることではない。政治經濟學は生產を支配し資材を割當てる法則を發見する。だが經濟政策はこの法則から實踐的歸結を作る。經濟政策の設定に際しては、階級間の關係、民族間の諸事情など全般的に考慮することが必要である。この基礎の上に各所與の具體的條件に適用し得る經濟建設の一般的方針を樹て、經濟發展の要求に應ずることができる。

そこで經濟政策の設定の重要な條件の一つはそれぞれの所與の要素の中に特別な鎖の環を發見することである。重要な環の確定なしには計畫的（均衡的）發展の法則も利用できない。國民經濟均衡のすべての條件が、それにつながつているからである。例えば國內戰の最後の時期に黨は農業經濟の向上・商業の發展をとりあげ、農民の物的關心により農業を恢復し資本主義要素への攻擊のための條件を作りあげることができた。復興期の課題が解決されて後に、重工業の發展なくしては社會主義の建設が不可能であることから、工業化が中心課題となつた。現在は農業部門の向上が基本的環であり、この諸方策は全く所與の具體的條件での社會主義の基本的經濟法則の要求からでてくるのである。

政治經濟學は經濟法則に適當な實踐的諸方策の實施について具體的期限をきめることはできない。テムポの正しい決定、諸方策遂行の始期と終期との豫測は、理論の實踐的歸結として經濟政策の爲すべき大きな仕事である。經濟の發展動向に後れると大衆から離反することになり、先んずれば大衆を減ぼし自己を孤立化することになる。いかに黨が一擧にコンムーナに達しようとする左翼と戰かつたか想起すればよい。經濟政策の課題は適宜に發生した矛盾を切り開くことにある。

經濟政策の遂行が成功するには、指導的勞働層と熟練要員とが決定的意味をもつている。現段階では農業部門に特に要員が要求される。これをフルシチョフは多くの例によつて證明した。

次に企業及び各部門勞働者の物的關心の原則は經濟政策の基本的原則の一つである。この原則は勞働配分及び價値法則の利用に基づき、勞働の量と質とに比例して各勞働の支出に比例して國民消費財の分配が要求されるということは經濟政策の敎える所である。黨はプチブル的賃金平等主義者と斷乎、戰かつた。賃金體系は勞働配分法則と合致し、計畫の遂行と超過により、社會主義競爭におけるより以上の指數により、不合格品の解消と生產物の質の向上により種々な賞與が與えられる。黨は農業部門にもこのような體系が確立されるよう援助している。特にフルシチョフは畜產物の販賣收入が他の農產物より低いことを指摘し、畜產・馬鈴薯・野菜生產の發展を促進するように物的關心の增大をはかつた。個人の利害と社會の利害との一致は經濟政策の基石である。一九五三年八月最高會議で採用された農業稅改正により農民の物的關心の向上をもたらした。

社會主義社會での物的關心は、生產の調節器の役割を演ずるのみならず、生產にも反作用を示す價値法則の要求を正しく考慮することから發生するのである。畜產及び野菜と馬鈴薯の生產においても、價値法則を正しく利用した原價がなかつたという理由から物的關心が破壞されていたのであつた。

このように物的關心は生產力の發展と密接ではあるが、これが唯一の勞働誘因ではない、搾取・失業・大衆の貧困のないことは誘因の一連の體系である。

さて國民經濟の社會主義的計畫化として經濟政策は、第一に國民經濟の全部門間に一致・調和した社會主義生產の均衡的發展を保證し、第二に國の勞働及び資源の効果的利用に努力し、第三に生產力の合理化を保證する。この計畫的指導に國家豫算は重要な役割を演ずる。一九五四年豫算審議において、重工業のより以上の發展、農業の向上、輕・食物工業・勞働生產性の上昇、原價引下などの重要な問題がとりあげられた。これは完全に黨の政策を反映するものであつた。國家豫算の發展はソ連邦の經濟向上の指標である。一九五四年國家豫算の收入は一九

五〇年と對比して一四九億ルーブル增加し、一九四〇年の三倍以上である。また計畫化は完全な集中化であるよりも獨立採算によつた方がより能率的である。

以上のような經濟政策に於て、大切なことは經驗を重ねて完成に近づくということである。黨・政府は大衆を敎化するだけでなく大衆に學び、經驗を一般化することが必要である。同志フルシチョフの野菜生產の增加に對する案は全社會の向上に大きな役割を演じた。このように地方的經驗を一般化するために提議することが政策の完成を導びくのである。

經濟政策の重要な課題は全社會の增大する物質的文化的要求の最大限の充足を保證することである。このためにレーニンが基本的と考えた手段――廣い國民大衆との交流、經濟性、創造的イニシアチブの援助、官僚主義との鬪爭――を斷乎實行しなければならない。ただこの手段の遵守によつてのみ黨に提出された大きな課題を解決できるのである。

× × ×

以上、それ程目新らしい論はないが、經濟政策を特に政治經濟學と區別して新しい領域を具體的につかもうとした點に興味深いものがある。しかしなお、經濟と政治との相互作用についての深い分析が必要であると考えられる。（加藤　寛）

E・コールネル
『農村の毛織業、都市の毛織業』

Coornaert, E. "Draperies rurales, draperies urbaines. L'évolution de l'industrie flamande au moyen âge et au xvie siècle" Revue belge de philologie et d'histoire, 1950 No. 1, pp. 59—96.

一

早くも十世紀末にフランドルの各地では毛織業が大規模な展開を示していた。そして十三世紀に入り都市工業の制覇が確定的となつた。都市の毛織業は、「高級品製造工業として、イギリス產の上質毛を加工し、規則づくめであつた」。しかし、「全く時代後れな織物を飽くまでも固守しようとする過度の組合規制のために急速に衰退し」て行つた。他方「農村の毛織業は十四世紀に伸長し、十六世紀に絕頂に達した。スペイン產の羊毛を使用して品質の劣つた毛織物を製造し、その發展を完全な自由に負つた。農村の織物業は自由な資本主義への途を進み、その結果社會不安は增し、聖像破壞が續き、・・・カルヴィン派の反抗が起つた」。

フランドル毛織業の發展について巨匠ピレンヌは大要以上のような概觀を試みた。そしてこの所說が永く重きをなして來た。しかし最近個別研究が進み、その成果を基礎として或る程度の反論が提起されている。にも拘わらず、技術・產業構造・生產者の經濟狀態・その社會的地位については少しも觸れるところがない。從つて「解決すべき問題が依然として多い」のである。

しかし以下において紹介される論文でコールネル敎授は、手の着けられない一面に光を當てようとしたのではない。むしろフランスドル毛織業の發展について今では旣に古典的と呼ばれるピレンヌ說に再檢討を加えようというのである。そうすることによつて敎授は、この論文で、十世紀末から十六世紀へかけてのフランドル毛織業の展開を、より本質的に把握しようとする。ピレンヌ說と違い、農村毛織業の主導性を如何なる時期についても强調した點、特に注目しなければならない。

二

十世紀末以來フランドルは毛織物を各地へ輸出していた。例えばノーヴゴロドの場合、十二世紀初頭に、フランドル織物は重要な輸入品であつた。その頃バルチック沿岸の諸地方に對する進出も目覺しかつた。更に十三世紀に入つて、フランドル毛織業は、イタリー、ドイツ全土、フランス、イベリヤ半島をも市場獨占することが出來た。コールネル敎授は、フランドル織物について、「イタリーにおける優位は爭われないし、また他の諸國についても優位は疑いない」という。

この時期の初期に關する限り、主要な織物中心は都市であつた。アラース、イープル、ガン、ドウエー、リール、セントメール、ブルージュの繁榮は毛織業に負つた。コールネル敎授によれば、「毛織業は都市で專業化され、改良されて完全なものとなり、特異性と高い評判を維持することが出來た」。イギリス產の上質毛で高級品を生產し、諸外國へ輸出していたのは正しくこの都市工業であつたのである。コールネル敎授は、都市毛織業の繁榮期を十一・二世紀に求め、この點、十三世紀を主張するピレンヌ說と相容れない。

むしろ十三世紀は、コールネル敎授にとつて、農村毛織物業の抬頭期であつた。特に「フランドルの毛織物が遠隔諸國で大評判となつて以來」、ディクスミューダ、ポープアリンガ、ヘースディンが農村中心として顯著な發展を示した。その他オーストベルフ、ヒステルが農村中心として著名であり、オーダンベルフ、トゥールトの商人を通じ、大量に輸出していた。フェールネ、ベルヒア、バイエル等の進出も無視し難い。これら農村の諸中心では、主として薄手の毛織物が生產され、農村工業の發展は正に、海外におけるこの種の織物に對する需要の增加に呼應するものであつた。「品質の劣つた毛織物がフランドル織物業のために最初の成功を齎らした」のであり、「ディクスミューダやポープアリンガのような農村の諸中心がフランドル毛織業の最初の發展に與つて力あつた」とコールネル敎授はいう。同時に敎授は、そのために必要な原料として、品質の劣つたスコットランド產やアイルランド產の羊毛が、イギリス產の上質毛と並んで早くから、しかも同じだけ大量に輸入されている事實を指摘している。

十三世紀に入り、農村毛織業の抬頭は、このように顯著であつた。その原因は、旣に指摘した如く、市場構造の變化にあつたのである。都市の毛織業も、この變化に應じて生產組織を變革して行かない限り、所詮沒落の運命にあつた。しかし都市の毛織業は、ピレンヌ說で指摘された如く、「全く時代後れな織物を飽くまでも固守しようとする過度の組合規制のために」衰退を免かれなかつたのであろうか。この點についてコールネル敎授は、都市的中心でも新種の織物を導入しようとする傾向が顯著となり、早くも、例えばブルージュ、イープルでは、農村で生產されるより廉く薄手の毛織物を輸出することが出來た程であつたという。フランドル織物業の場合、コールネル敎授によれば、「規制の必要それ自體は新しく」、十三世紀の後期に現われたに過ぎないのであり、概して「狀態は・・・自由であつた」のである。ピレンヌ說にいう「規則づくめ」ではなかつた。

三

十三世紀末にフランドル織物業は重大な危機に見舞われた。危機は遠く十四世紀末まで續いた。危機の外的原因としては、ブラバン產織物の大規模な進出が擧げられよう。また內的原因としては、フランドルにおける政情不安が織物業の伸張を阻止